

世界の笑顔を増やすために

棚倉中学校 1年 ^{じんの}陣野 みなみ

あなたは今の生活に満足していますか？

私の母はフィリピン出身です。その影響で私の家では、海外アニメやドラマをよく見ていました。その中で華やかで楽しそうな雰囲気や、自分のやりたいことを自由にやっている様子を見て「海外」に憧れを抱き、将来は海外で生活したいと思うようになりました。

幼稚園からの夢はファッションデザイナーになることでした。洋服の絵などを描くのが得意で、毎日のように描いていた私は、小学校高学年の頃までその夢は変わりませんでした。しかしある日、世界の貧困問題について知りました。

去年の冬、母の故郷であるフィリピンに行った時、私はストリートチルドレンに出会いました。買い物をし終え、おつりの20ペソを手にとって店を出ると、一人の男の子が私のところにかけてよって私が握っている20ペソを見ながら言いました。「僕にちょうだい。」そう言った男の子の足を見ると、外にも関わらず裸足でした。私はその子に20ペソを渡すと、笑顔で走って行きました。しかし向かったのは店の駐車場の端。そこには男の子と同じ、5歳くらいの子が4人程いて、男の子達は私が渡した20ペソを配りながら楽しそうにおしゃべりしていました。その時私は、貧困により食べ物を十分に食べられない、毎日同じ服しか着られない、学校に通い勉強することもできない子どもたちを救いたい、少しでも役に立ちたい、と強く思いました。貧しい家庭に生まれた子、親がいない子だからといって、みんなが不幸せなわけではありません。家族や友達と楽しく話す子や、素敵な笑顔にあふれている子もいます。私はその子たちの笑顔を自分の手で増やしたいと思いました。それから私は青年海外協力隊というものがあることを知り、興味を持ちました。そして、ちょうど学習旅行先が二本松市にある、JICAという場所になりました。JICAは、青年海外協力隊として派遣される前に訓練をする施設です。ここで実際に海外に派遣された人の話を聞きました。その人が派遣された国は、偶然にもフィリピンでした。楽しみだった海外青年協力隊の話がより楽しみになりました。「ここで働いて良かったと思えることはなんですか。」と聞いてみると「日本にいて日本の文化をいくら知っても192カ国のうち1つしか知らない。しかし、海外に渡り、その国の文化を見て感じることで他の文化を知ることができる。」その言葉に私はひどく共感し、より一層海外への憧れが増しました。この時、私の夢がはっきりと決まりました。海外でファッションデザイナーとなり、チャリティーとして満足に服を着られない子たちに自分がデザインした服をプレゼントしたい。

私は夢を叶えるために自分がすべき目標が二つあります。

一つ目は英語を話せるようになることです。海外で職業につく際に英語が話せなければ、コミュニケーションをとることは難しいでしょう。そのために現段階から英語の勉強に力を入れていきます。

二つ目は海外の大学に通うことです。第一希望であるオーストラリアについて本を借りて調べた中で印象に残ったことは「自分がやりたいことをする」ということです。何もかもが自由というわけではありませんが、誰かがやっているから私もやるという考えは一切ありません。私はこの考えがすばらしいと感じました。

最後に、夢は必ずしも叶うわけではありません。思い描いたとおりにいくのは難しいかもしれません。しかし、世界には学校に通いたくても労働を強いられ、通えない子が大勢います。

学校に通い、勉強ができる幸せを感じながら、将来の夢に一步でも近づけるよう努力していきます。たとえ叶わずとも自分が生きたい人生を送りたいです。

世界中の笑顔を増やすために。